

第2学年5組 国語科学習指導案

指導者 下益城城南中学校 教諭 岩屋 智子

1 題材 「ゼブラ」 (光村図書2年)

2 題材について

(1) 題材観

様々な伝達手段が発達し日常化している今日、周囲の人々とどう関わっていけばよいのか、人と人とのきずなについて考えることはますます重要になってきている。本題材は、交通事故で左手を負傷し、悲観的な毎日を送っていた主人公ゼブラが、同じ左手のない美術の非常勤講師ウィルスンさんと出会い、「かこうとするものの輪郭を見るのではなく、その輪郭を包む空間を見る」のだという彼の言葉から「新しい見方」を教わり、少しずつ前向きな気持ちへと変化していく様子を描いている。

本題材は翻訳小説であり、平易な文章表現で書かれているものの、人物の姿や関係を象徴する事柄や会話が登場するという表現の特徴がある。それらの表現の特徴に注目することで、内容の理解と同時に、文学作品を読む楽しさを味わうための「読み方」を学ぶことのできる作品である。これまでに学習してきたもの以上に、読み手の個性に応じた多様なとらえ方が可能な作品であり、中学生が大きく成長し、感じ方・考え方に際だった個性が現れる2年生2学期こそ、「心のきずな」とは何かを考えるにふさわしい学習時期といえる。この作品との出会いは、「人と人のかかわりの中で生きている自分、他者により生かされている自分」を発見し、改めて自分と他者との関係について考えるよい機会となるはずである。

(2) 系統観

韻文や古典を除いた文学的な文章の各学年の題材と主な学習内容は以下の通りである。

第1学年	第2学年	第3学年
<ul style="list-style-type: none"> ・麦わら帽子 (物語) ・大人になれなかった 弟たちに・・・ (物語) ・雪やこんこ、 あられやこんこ (随筆) ・少年の日の思い出 (小説) 	<ul style="list-style-type: none"> ・走れメロス (小説) ・ゼブラ (小説) ・字のないはがき (随筆) ・葉っぱのフレディ (物語) 	<ul style="list-style-type: none"> ・握手 (小説) ・蝉しぐれ (小説) ・故郷 (小説) ・二つの悲しみ (随筆) ・温かいスープ (随筆)
作品のおもしろさ・作者の思いをとらえる。	表現の特徴に注目して読む。感想を深める。	表現を味わい、書き手の思いに迫る。

本題材で身につけたい言語技能は、「象徴語を理解して読む」と「人物の転換点に着目する」である。

(3) 生徒観

本学級は、男子19名、女子16名、計35名の学級である。国語の学習についてのアンケートでは、「どちらかという嫌い」と答えた生徒が44%で最も多く、「好き」よりも「嫌い」な生徒の方が多かった。「読むこと」についての内容では、「小説や説明文のだいたいの意味がわかる」と答えた生徒は半数以上、「よくわかる」という答えと合わせると、66%と比較的高い割合を示している。しかし、標準学力検査の結果を見ると、「読むこと」に関する正答率は、70%以上(4名)、40~70%(20名)、10~40%(9名)と、他の領域に比べ低い結果となっている。本題材で文学作品の「読み方」を学習することにより、確かな内容の理解を図るとともに、文学作品を読む楽しさを味わわせ、読書意欲を喚起する必要がある。

(4) 指導観

視点1 毎時間の学習目標を明確に提示し、目的意識を持って読ませる。

生徒に目的意識を持って学習活動に臨ませるため、着目するポイントを明確に提示する。

視点2 個々の読みを共有し、学び合う場面を設定する。

個別学習からグループ学習へと進めることによって、読みを広げ深めるようにしたい。

視点3 生徒自身が、読みの深まりを感じることができる評価の在り方を工夫する。

初発の感想をもとに、学習後に生徒自身が自己の読みの深まりを実感できるような評価の在り方を工夫したい。

3 学習指導の目標

文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見を持つこと。	C-2, 3-E
表現の仕方や文章の特徴に注意して読むこと。	C-2, 3-U

○文章を読んで人と人とのきずなについて考え、自分の意見を持つようにさせる。

○文脈の中における言葉や事柄に注意しながら読み進めることで、全体の内容をつかませる。

4 指導と評価の計画(4時間取り扱い)

次時	学 習 活 動	評 価 規 準	評価方法
1 1	○主な登場人物を確認した後、全文を通読し初発の感想を書く。	〈関心・意欲・態度〉 ・作品の優れた表現を味わい、表現の工夫に着目しながら読もうとしている。	観察シート
2 2	○疑問点を出し合い、学習課題を決定する。 ○課題を解決するための手がかりとなる表現を見つけ、それが含まれる箇所を探す。	〈読むこと〉 ・ポイントとなる言葉や事柄を押さえながら、目的を持って主体的に読みを進めていこうとしている。	観察 発表 シート
3 本時	○手がかりとなる表現をもとに、ゼブラの心情の変化を読み取る。	・文章を読んで、人と人とのきずなについて考えを深めている。 〈言語事項〉	発表 観察 シート
3 4	○人と人とのきずなについて考えをまとめる。	・語句の効果的な使い方や象徴的な表現・描写を、文脈の中でとらえている。	観察 発表 シート

5 本時の学習

(1) 目 標

○手がかりとなる表現（左手・ゼブラの作品）をもとにして、ゼブラの心情の変化を読み深めることができる。

(2) 評 価

評価項目	評 価 基 準	つまずきへの手だて
関心・意欲・態度	ゼブラの心情の変化を読み味わおうとしている。	「左手」や「ゼブラの作品」について変化の過程を確認させる。
読むこと	ゼブラの心情の変化を、「左手」や「ゼブラの作品」などを手がかりとして読みとることができる。 ゼブラの心情の変化をもたらしたのは、ウィルスンさんとの出会いであることが理解できる。	ペアや班での学習において個人の読みを交流する場を設け、自分の考えの参考にさせる。

(3) 展 開

過程	徹能形態	学 習 活 動	基本発問・指示
導入 5分	徹 A	1 これまでの学習を振り返る。 2 本時の目標を知る。 ウィルスンさんとのかかわりの中で、ゼブラはなぜ変わったのかを考える。	○ゼブラの心情はどのように変化していき ましたか。視点別のワークシートを見て 振り返りましょう。 →〈視点1〉
展開 35分	能 I	3 ゼブラの心情が大きく変化した ところを探す。	○いちばん大きく変わったと思うところに 印を付けましょう。
	能 I	4 変化のきっかけを考える。	○ゼブラの気持ちが変わるきっかけは何だ と思いますか。
	能 I	5 ウィルスンさんの言葉に込めら れたゼブラへの思いを考える。	○ウィルスンさんの言葉は、ゼブラにとっ てどのようなメッセージになっています か。
まとめ 10分	徹 A	6 グループで個人の読みを交流す る。	○グループで話し合い、考えをまとめまし ょう。 →〈視点2〉
		7 本時の学習内容をまとめる。	○今日の学習を振り返りましょう。 ○今日の学習で手に入れたものなどをシー トに記入しましょう。 →〈視点3〉

教師の支援	評価（評価方法）	備考
<p>○ゼブラの心情の変化が「左手」や「ゼブラの作品」に象徴されていたことを確認する。</p>		<p>学習シート 広用紙 カード</p>
<p>○必ず「どうしてそう考えたのか」という根拠を明らかにさせる。</p> <p>○次の活動につなぐため、P125, L10を取り上げるようにする。</p> <p>○「新しい目で見えることを覚えてほしい。」「手の周りの空間を見るんだ。」というウィルスンさんの言葉に着目させる。</p> <p>○ゼブラへの具体的なメッセージを考えさせる。</p> <p>○メッセージを記述していない生徒に対しては、その後のゼブラの変化に着目するよう助言する。</p> <p>○グループの考えとしてまとめさせ、シートに記入させる。</p>	<p>○手がかりとなる表現をもとに考えているか。 （観察・シート）</p> <p>○ゼブラの心情の変化を読み取っているか。 （観察・発表・シート）</p> <p>○ウィルスンさんと出会ったことで、ゼブラの心情が変化したことを理解できたか。 （観察・発表・シート）</p>	<p>学習シート 広用紙 カード</p> <p>学習シート</p>
<p>○ゼブラが、ウィルスンさんとの触れ合いの中で変容していったことを確認する。</p> <p>○ポイントとなる言葉や事柄に着目することが、作品全体の理解の鍵となることを確認する。</p>		<p>カード</p> <p>学習シート</p>